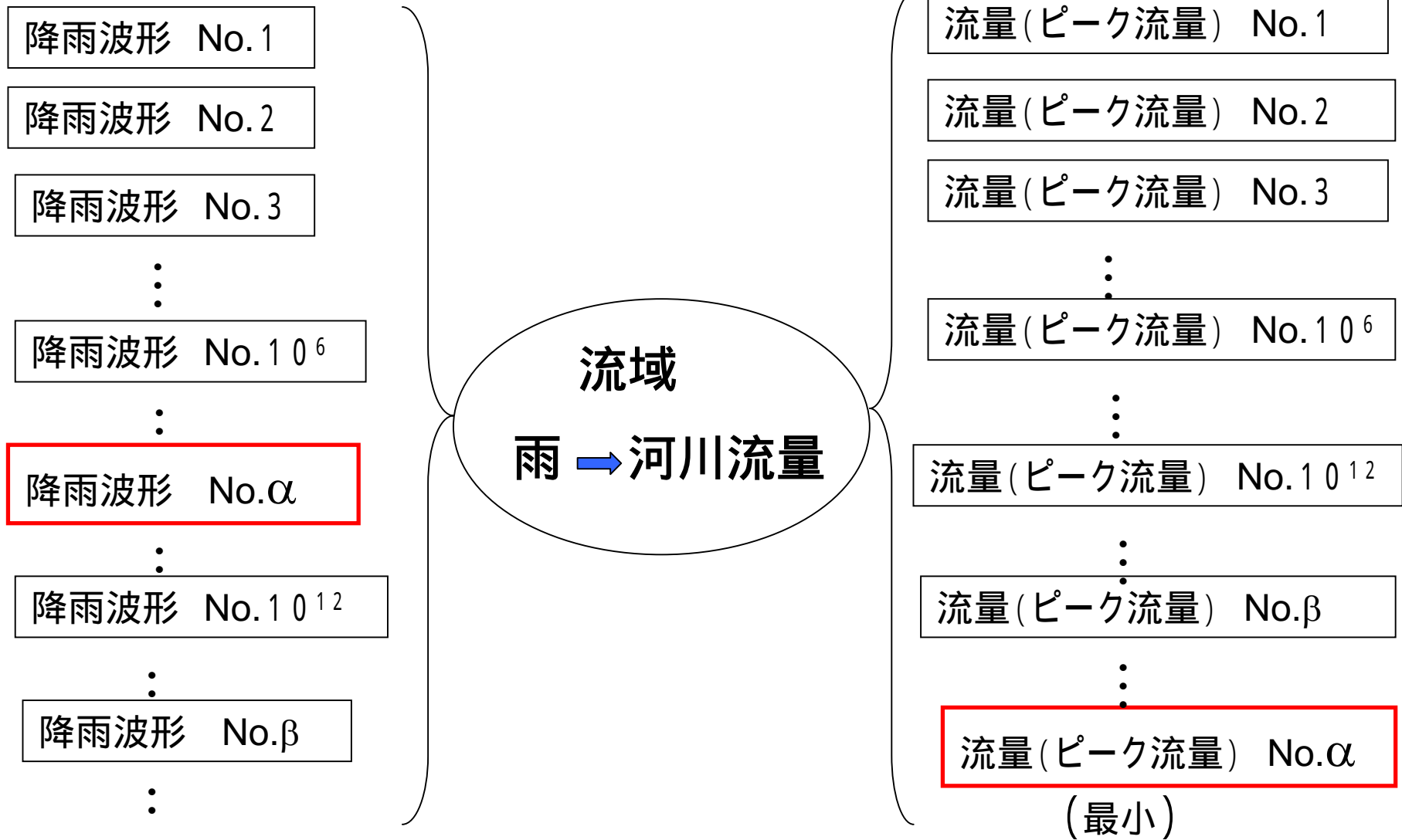


1時間雨量が全て異なる場合，それらの組合せで作り出せる24時間の降雨波形の総数は

$$24 \times 23 \times 22 \times \dots \times 3 \times 2 \times 1 = 24! \cong 6.2 \times 10^{23}$$

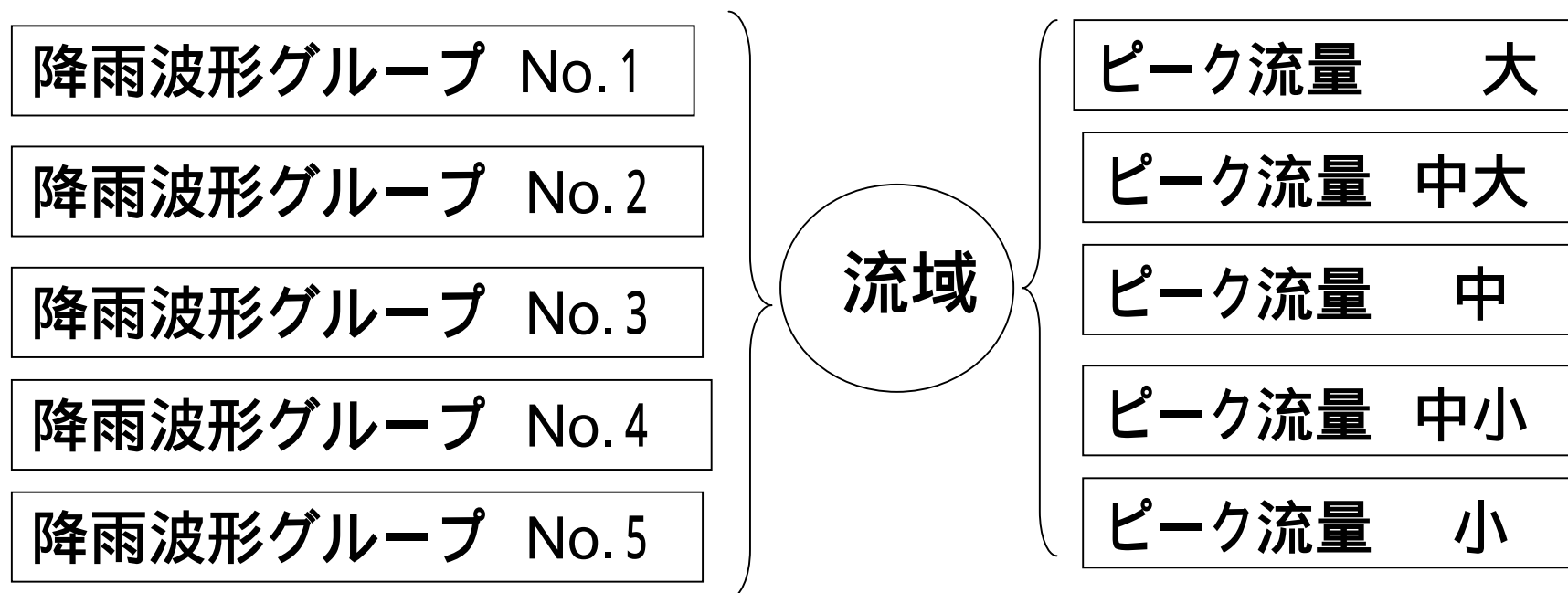
さらに，1時間雨量はいろいろの値をとるので，降雨波形は，実質的に無数．



前ページで示したように、個々の降雨波形の生起確率は、極めて小さい。

それゆえ、カバー率 =  $100/100 = 1$  のピーク流量(ほぼ最小のピーク流量)を発生させる降雨波形(この例では No.α の波形)の生起確率も極めて小さい。

仮に、降雨波形を、対応する流量の大小でグループ分けると



---

個々の降雨波形グループの生起確率は、(グループに分けるので)  
1 (= 100%) 以下。もし等分なら、この例では、20% (= 1/5)。

〔雨量確率〕 × 〔降雨波形発生確率〕 = 〔流量確率〕 であれば、  
降雨波形(グループ)の発生確率は1より大変小さいので、  
100年確率流量は、(100確率雨量からは)求められない。??